

令和8年度

松茂小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら考え、判断し、表現できる子どもの育成

校長

篠原 義正

学力向上推進員

北野 香

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|--|---------|----------|-------------|
| <p>○基礎的・基本的な知識や技能が定着している児童が多い。</p> <p>○AIドリル等の反復学習に取り組むことで、知識・技能を定着させている児童が多い。</p> <p>●習得した知識を言語活動の中で正しく活用できていない児童が多い。</p> <p>●「書く」技能が身に付いていない児童が多い。</p> | <p>・学習で習得した知識を言語活動の中で正しく使ったり活用したりすることができる。</p> <p>・正しい文法で書くことができる。</p> | <p>・「正確に読む力」(読み飛ばしや思い込みをせず情報を読み取る力)を養うため、教科書や問題文へのアンダーライン引きの徹底、音読、視写に取り組む。</p> <p>・AIドリルや練習プリントの反復を継続する。</p> <p>・読書活動の推進や、国語の教科書「ことばの宝箱」を活用し、語彙力を高めながら、日常的に正しい言葉を使えるよう指導を継続する。</p> | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|---------|----------|-------------|
| <p>○多様な学習形態を取り入れることで、自分の考えを表現したり、学びを深めたりすることができる児童が増えた。</p> <p>○ICT端末や思考ツールの活用し、意見を表現することができる児童が増えた。</p> <p>●理由を明確にして表現することや、「書く」ことへの苦手意識が強い児童がいる。</p> <p>●グループでの話し合いを繰り返したり、まとめたりすることが難しい。</p> | <p>・習得、活用、探求の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。</p> <p>・既習内容を活用して自力解決し、互いの考えを聴き合いながら学びを深めることができる。</p> | <p>・個に応じた手立てをとりながら、児童自身の書きたいという思いを引き出せるような課題設定を工夫する。</p> <p>・自力解決の時間を確保したうえで、多様な学習形態を取り入れ、自分の思いや考えを表現する活動を設定する。</p> <p>・目的や意図に応じて表現する力をつけるために、ペアワークやグループ活動を継続的に実施し、自分の考えを言葉にする経験を積み重ねる。</p> <p>・思考ツールを効果的に活用し、考えを可視化することで、論理的な話し合いを支える。</p> | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|--|---------|----------|-------------|
| <p>○与えられた課題に真面目に取り組んだり、自分に合った課題を選択し意欲的に取り組んだりすることができる。</p> <p>○学習の振り返りを行い、達成度を自己評価できる児童が増えた。</p> <p>●自ら進んで課題を見つけ、最後まで粘り強く取り組む姿勢について、児童間での差が大きい。</p> | <p>・めあての達成に向けて児童自身が自分に合った学習課題を選択することができる。(調整力)</p> <p>・学習に目的をもって取り組んだり、最後まで粘り強く取り組んだりすることができる。</p> | <p>・毎時間「めあて」を提示することで、児童が学習の目的を意識できるようにするとともに、「見直す力」や「振り返り」を重視し、学んだことを次につなげる力を養う。</p> <p>・振り返りの視点を具体的に示し、学んだ内容や学び方を自覚させることで、自らの学習をコントロールする「調整力」の育成を全校体制で推進する。</p> | | | |